

第4期第1回 教育関連学会連絡協議会運営委員会議事記録

日 時： 2021年8月25日（水）12:30～13:30

場 所： オンライン Zoom

参加者： 吉田（委員長）、松下（事務局長）、木村、浜田、子安、坂越、米田、中谷、渡辺、松浦

欠席者： 汐見、古賀、中嶋

<議題>

1. 活動報告

松下事務局長より、2020年11月7日（土）に新型コロナの影響のため延期されていた「すべての市民に無償の普通教育を！—日本学術会議分科会提言からの問題提起—」（公開シンポジウム）が、2021年3月13日（土）に「21世紀の教科教育とその新しい研究—今、何が求められ、いかに、果たすのか—」（公開シンポジウム）が開催されたことが報告された。どちらの公開シンポジウムも多くの参加者があり、盛況に終わった。なお、いずれのシンポジウムについても関連協ウェブサイトでも報告している。

2. 加盟と退会の申し出について

松下事務局長より、これまでに退会した学会はなかったこと、2つの学会が入会を希望していること（全国英語教育学会、心理科学研究会）が報告された。2学会の入会承認に関しては、3月の総会で検討することが確認された。

3. 今後の活動計画について

①2022年3月12日総会の持ち方について

松下事務局長より、2022年3月12日（土）に開催予定の総会について報告があった。開催時間はまだ確定していないが、午後の時間から1時間を予定していることが確認された。

②総会時の公開シンポジウムの企画について【資料1】

総会時の公開シンポジウムの企画について、吉田委員長より資料1の通り報告があった。なお、開催時間はまだ確定していないが、総会終了後から2時間ないし2時間半を予定している。今後、時間設定や内容について、登壇者とも協議を進めることが確認された。

4. その他

松下事務局長より、日本学術会議における議論について報告があった。自民党から日本学術会議のあり方についての提言が出され、それに対して日本学術会議では現在の設置形態を変える理由はないという結論で報告を出したが、同時に内部で、諸学協会やその連携組織、政府の審議会と日本学術会議の違いを明確にするための改革が進められている。10月の総会でより具体的な方向性が決定される予定である。

【資料 1】

教育学関連学会連絡協議会 2022.03 シンポジウム

日時：2022年3月12日（土）14：30-16：30（案）

タイトル：「世界の高大接続の現状と課題」

趣旨：後期中等教育から高等教育への進学者が少数であった時代においては、高大接続とは入学者選抜の一接点のみの問題であった。後期中等教育でどれだけの準備をして力をつけた学生を選抜するかが高大接続の焦点であった。しかしながら、高等教育とりわけ大学への進学率が上昇するにつれ、高大接続の課題は、入学者選抜という一接点に加え、後期中等教育における教育内容と大学におけるそれとの関係、後期中等教育機関から大学へ移行する生徒・学生の学習状況など、面へと拡がりを見せるようになった。

世界に先駆けて高等教育の拡大が進んだアメリカでは、この問題は1世紀にわたって論じられており、近年、高等教育進学率が急増したヨーロッパでも、また、厳しい入学試験で知られる東アジアでも、高大接続が多面的に論じられるようになった。

そこで、本シンポジウムでは、アメリカ、ヨーロッパ、東アジアの高大接続の現状と課題の多面性を比較するとともに、日本における高大接続の在り方を考える上での示唆を得ることを目的とする。

登壇者：山田礼子（同志社大学教授）

松浦良充（慶応大学）

渡邊雅子（名古屋大学）

南部広孝（京都大学）

司会：吉田 文（早稲田大学教授）

スケジュール：

発表：（20分（発表）+5分（質問））×4人＝100分

質疑：20分

*もう少し時間があつた方がよい。

総会（13：00-14：00）の終了直後に始めれば、14：10-16：30とし、+20分（質疑に10分、開会・趣旨説明・閉会に10分）が可。